



新知故温

二十四節気

10月23日は

霜降

「霜降(そうこう)」は、「二十四節気」の一つで第18番目にあたります。

「霜降」の日付は、近年では10月23日または10月24日であり、年によって異なります。2021年は10月23日(土)です。

「霜降」の一つ後の節気は「立冬」(11月7日頃)です。「霜降」には期間としての意味もあり、この日から、次の節気の「立冬」前日までをいいます。

秋が一段と深まり、露(つゆ)が冷気によって霜(しも)となって降り始める頃なので「霜降」とされています。

カエデやツタ、ツツジ、ウルシ、イチヨウなどが紅葉または黄葉し始める頃。また、朝夕の気温が下がり、冬の近付きを感じる頃でもあります。

この日から「立冬」までの間に吹く寒い北風を「木枯らし」と呼びます。気圧配置が西高東低の冬型で、最大風速8m/s以上の北風など条件はさらに複雑ですが、関東地方(東京)と近畿地方(大阪)において、毎秋最初の木枯らしを「木枯らし一号」として気象庁より発表されます。

【今号の主な内容】

- P① 二十四節季 霜降
- P② 転倒災害に要注意
- P③ 施工検討会
- P④ ことわざ・次回案内

発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
TEL : 03-3572-1866

ことわざ・格言にならう安全衛生訓

● 杞憂 ●

・飛来・落下物の防止対策を



「杞憂」とは、あれこれと無用な心配をすることをいいますが、「杞憂」のいわれは、昔、中国の周の時代に『杞』という国があって、もし天が崩れ落ちてきたらどうしようと憂えるあまり夜も寝られず、食事もノドを通らなくなった人がいたそうです。そこから“杞人の憂い”、“杞憂”という言葉が生まれましたが、この“杞憂さん”、他の人が絶対に天は落ちてこないからと懇切に科学的な説明をした結果、スッキリし、安心したとのこと。

でも、この“杞憂さん”が現代に生きていたらどうでしょうか。人工衛星や飛行機が落ちてきて犠牲者が出たり、ビルの看板や建設現場の足場材が落ちてきたり、スッキリ安心はして貰えないでしょう。

労働災害で、高所からの飛来・落下物による休業4日以上死傷者は毎年約7千人にも及んでいます。これらの災害を防止するためには、高所から物を落とさない対策や、立入り禁止等の措置、保護帽着用等の徹底を図って、高所からの飛来・落下を「杞憂」にしていきたいと思います。

ご参加ください

【 職長会のお知らせ 】

★日時 2021年11月22日(月)

★時間 18時00分～

★会場 銀座ユニーク 3階



野田工業株式会社

施工検討会 ～技術顧問のつばやき～

今月の議題

◎ 配管の保温材取付の注意点について

今月の施工検討会では配管の保温材の取付方法を改めて確認したいと思います。

①所定の厚さの保温材(保温版、保温筒等)を管及び保温材相互に密着して取付ける。

②横走り配管の保温材は、合わせ目が上下ではなく斜め45°程度にくるように取付ける。(図-1)

③保温材の合わせ目は、配管の長手方向に同一線上にならないように取付ける。(図-2)

④保温帯を複層で施工する場合の合わせ目は一層ごとに鉄線で巻き締め、合わせ目が同一線上に重ならないようにする。(図-3)

⑤曲り部、フランジ部等で成形カバーのあるものは、成形カバーを使用する。やむを得ず保温帯を使用する場合には重ね部の継ぎ目は同一線上を避けて取り付け、一層ごとに鉄線で50mm以下にらせん巻き締めとする。

⑥保温材の取付は、保温筒1本につき鉄線を2カ所以上2回巻き締めとする。ただし、長さ200mm以下程度のものは1カ所でもよい。(図-2)

⑦A種ポリスチレンフォーム保温筒の取付けは、合わせ目を全て粘着テープで止め、両端の継ぎ目は粘着テープ2回巻きを行う。なお、その継ぎ目間隔が600mm以上1,000mm以下の場合、中間に1カ所粘着テープ2回巻きを行う。(図-4)

⑧ポリエチレンフィルムはテープ状のものを1/2以上の重ね巻きとし、巻ける範囲で広幅のテープを使用し、継ぎ目をなるべく少なくする。

⑨整形原紙は、重ね布を30mm以上とし、鉄線など仮止めし、仕上げテープを巻きながら仮止めを取り外す。

図-1

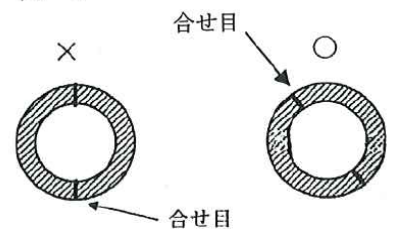


図-2

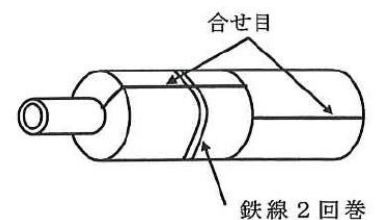


図-3

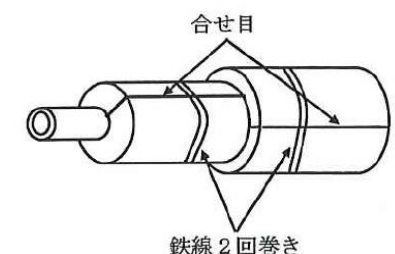
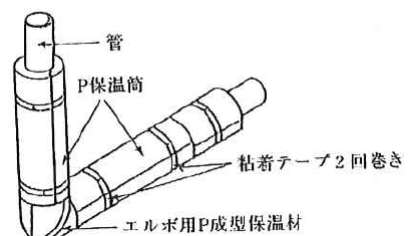


図-4





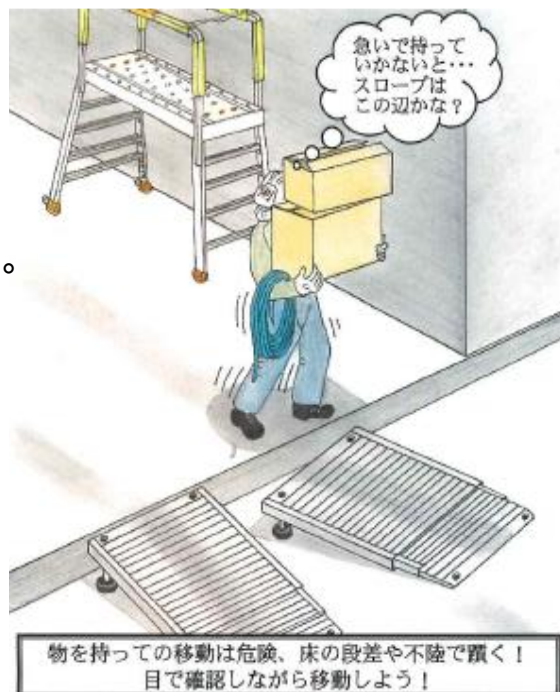
転倒災害に要注意

転倒災害は最も多い事故の1つです。転ぶなんて大したことないと軽く考えがちですが、ねんざや骨折といった休業災害にもなりかねない危険な事故です！

転倒事故の主な原因

- 床に置かれた資材につまずいた。
- よそ見をしていて段差に気が付かなかった。
- 階段を踏み外した。
- 荷物を持っていて前が見えなかった。

➡ すべて足元未確認が原因！！



つまずき・転倒を防止する知恵

成人で2～3cm、高齢者だと2cm程度の段差があるとつまずいてしまうというデータもあります。作業通路や昇降設備等では下記のことに取り組むことで事故防止につながります。

- ①段差をなくす。(特に敷き鉄板等)
- ②段差部分は目立つように表示する。
- ③段差部分は十分に明るくする。
- ④階段ステップ等の高さは同じ高さにする。



また走る、後ろ向き歩行、段差部での足元未確認などの「やってはいけない行動」をやっていないか、改めて意識してみましよう！

転倒災害防止のカギは



足元注意！！